

## 神宮の森は誰のものか

柴生田 晴四

(経済倶楽部理事・相談役)

明治神宮は、明治天皇の崩御の後にその遺勲を顕彰するために造営されました。建設の推進に際しては一大国民運動が展開され、神宮本体が鎮座する内苑の建設には国費が投入されましたが、外苑は民間からの寄進や労働奉仕によって建設されました。第二次世界大戦後の復興に当たっても民間の人たちの無償の協力が大きな力になりました。

民営に変わっても、公共的な色彩のきわめて強い苑池であることは疑いようがありません。神宮外苑には二つの野球場やラグビー場、記念館などが森に包み込まれるようにして散在していました。秩父宮ラグビー場や神宮球場はアマチュアスポーツの聖地として長く親しまれてきましたし、観光名所としても有名なイチョウ並木を含む神宮の森は大都市では貴重な緑豊かな公園として市民に親しまれてきました。都市の緑は温暖化によって激しさを増すヒートアイランド化を緩和するだけでなく、防災の役割も担っています。

昨年3月に着工した明治神宮外苑地区の再開発事業は、三井不動産、明治神宮、日本スポーツ振興会、伊藤忠商事が行う事業で、神

宮球場と秩父宮ラグビー場を建て替え、超高層ビル二棟を新たに建設する計画です。ラグビー場を第二球場跡地に移設し、ラグビー場跡地に新球場を建設しますが、この建て替えにあたって高さ3メートル以上の中高木743本を伐採、新たに887本を植樹する計画でした。

この計画が公表された後、ユネスコの文化遺産審議会の下部組織である日本イコモスや亀井静香氏のグループなどから反対や見直しを求める声が上がりました。いったんは計画案を了承した東京都も9月に146本のイチョウ並木の保全策と伐採本数の削減を要請。事業者側が見直し案の作成を進めています。

かつて都市工学の権威として知られた伊藤

滋氏が東京のヒートアイランド化の対策として樹木の枝葉の剪定を控えることを提言したことがあります。暑さ対策としても、そして深刻さを増す温暖化対策としても、今必要なのは、現に存在する緑を保全し、少しでも緑を増やすことです。大きく育った大木の価値が単なる本数以上に重要なのは言うまでもありません。

日本イコモスは、百年にわたって育まれてきた世界に類を見ない公園が破壊されようとしていることに警告を發しました。明治神宮はその歴史的経緯から考えても国民の共有財産です。それでも神宮の存続にこの事業が欠かせないと強弁するのなら経理を公開し収支計画を明らかにすべきでしょう。